

児童相談所における「非行相談に関する調査」について

児童相談所における非行相談に関する調査結果について(速報版)

1. 調査対象

(1) 個別調査

全国の児童相談所(182ヵ所)において平成15年度に非行相談として受理した子ども全員を対象として、平成16年10月に、担当児童福祉司が記入する形のアンケート調査を行い、169ヵ所(92.9%)から回答。

調査対象は、11,555人の子ども(男子7305人;63%、女子4063人:35%、《無回答187人》)。

(2) 機関調査

全国の児童相談所に対して、平成16年10月に、非行相談全般の傾向や体制などについてのアンケート調査を行い、175ヶ所の児童相談所から回答(回収率96.2%)。

2. 調査内容

(1) 個別調査

① 非行相談の概要

非行内容、集団化傾向、非行の場所、相談経路、処遇内容、平成14年度以前の相談内容。

② 児童と家族の属性・状況

家族構成、家庭の経済状態、子どもの知的能力、心理的・精神的傾向、精神疾患の診断の有無など子どもと家族の特性。

③ 生育歴

入所型施設の入所経験、養育者の変更の有無、回数、初発非行年齢・非行内容、保護者の養育態度、子どもの親に対する態度、虐待歴の有無、暴力(被害・加害)の経験の有無などの養育環境の問題や被害・加害体験。

④ 地域との連携

学校との連携状況、連携の有効な協力機関の把握。

⑤ 現在の状況

施設入所の有無、調査時点での処遇状況、援助の効果。

⑥ 非行対応への課題

非行要因、困難さ、必要な機能など、非行対応における課題。

(2) 機関調査

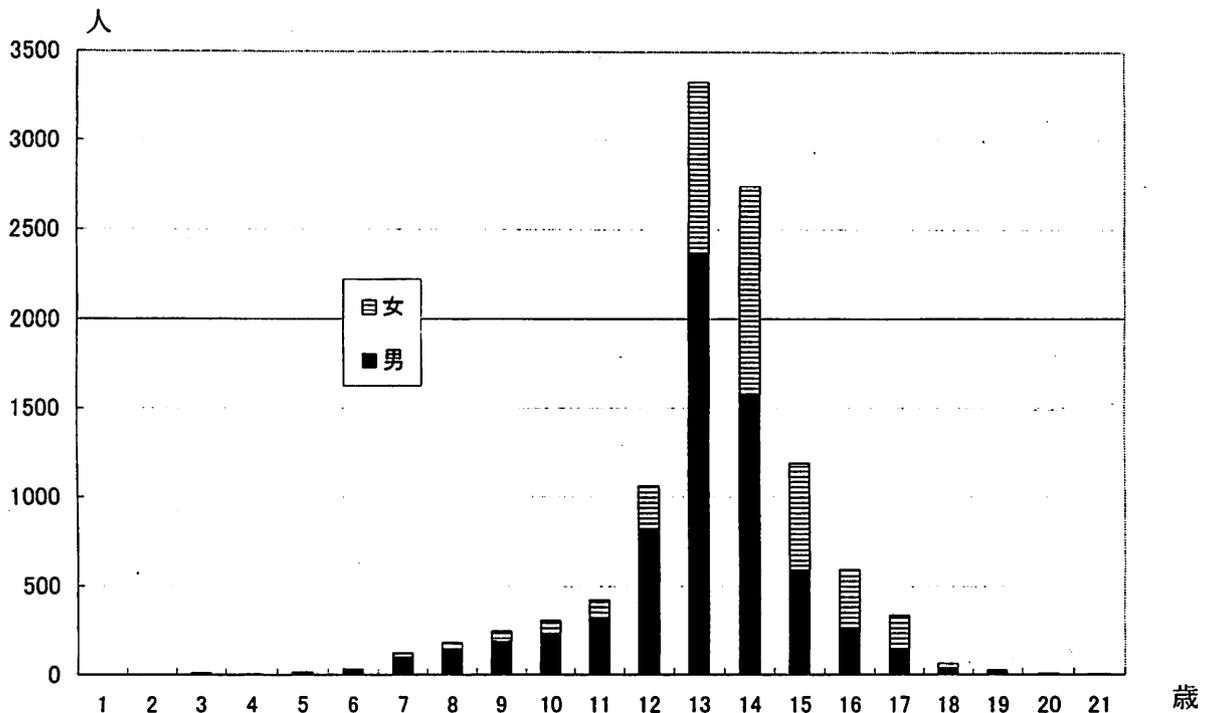
非行相談の対応体制、受理状況、困難性、非行要因、児童自立支援施設との協力関係、リビングケア・アフターケアの取り組み状況など。

3. 個別調査の調査結果

(1) 子どもの年齢・性別

- ・ 調査対象児は、1歳から21歳までに及び、13歳で急増してピークを成し、中学生年代が全体の約7割(グラフ1)。
- ・ 男子は女子の約1.8倍で、平均年齢は女子の方が高かった。

グラフ1 年齢別・男女別調査対象児



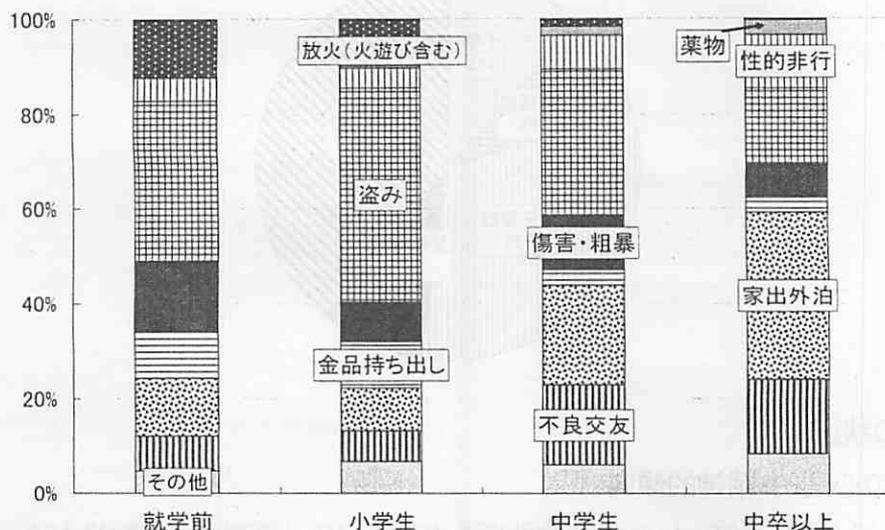
(2) 非行について

① 非行内容

- ・ 全体を見ると、「盗み」が一番多く対象児の約半数にみられ、次いで「家出外泊」が約3割、「不良交友」が1/4弱。
- ・ 年齢区分別にみると、就学前、小学生の非行では「盗み」の確率が高い。小学生では「放火(火遊びも含む)」件数が他の年代と比して多く、全件数の約6割が小学生。
- ・ 中学生年代では、放火を除いてどの非行も抜きん出で多い数であるが、「盗み」に続いて「家出外泊」、「不良交友」「傷害・粗暴」「性的非行」が多かった。中卒以上では「家出・外泊」が占める割合が一番高く、「盗み」「不良交友」「性的非行」がこれに続いた。
- ・ 14歳以上の犯罪少年に対しては児童相談所が関与することが少ないため、「ぐ犯行為」が多くなっている。
- ・ 男女別でみると、男子では「盗み」「傷害・粗暴」が多く、女子では「家出外泊」「盗み」が多い。

- ・ 「家出外泊」「不良交友」「性的非行」「薬物」については、女子は男子より有意に高い値を示した。

グラフ2 年齢区分別非行内容



② 非行の集団化傾向

48%は複数で行われており、単独は39%、混在は9%。

③ 相談経路・処遇

- ・ 相談経路として最も多いのは警察からの通告(53%)で、そのうち19%は身柄通告。家族からの相談が32%、学校からの相談が13%。
- ・ 受理した事例のうち、19%の子ども、15%の保護者が面接要請に応じていない。また、20%の子どもが一時保護され、11%が児童自立支援施設に、4%が児童養護施設に入所となった。

④ 平成14年度以前の相談歴

- ・ 以前に相談歴のあったものが約4分の1あり、相談内容としてはく犯行為47%、触法行為34%、養護相談45%(うち虐待相談20%)であった。養護相談の多さが目立ち、非行の背景に虐待や養育困難など何らかの養育機能の問題が示唆され、早期からの援助の必要性が窺われた。

(3) 家族の状況

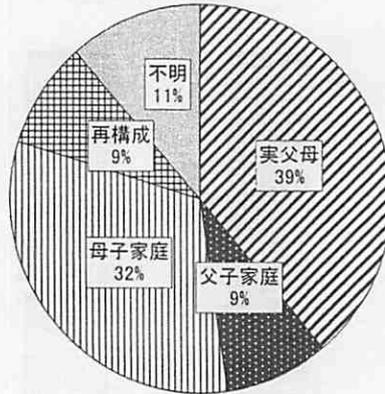
① 家族構成

実父母家庭39%、母子家庭32%、父子家庭9%、再構成家庭9%で、ひとり親家庭が41%(グラフ3)。

② 家庭の経済状態

約3割は家庭の経済的状況が悪く困窮、約1割は生活保護を支給。

グラフ3 家族構成

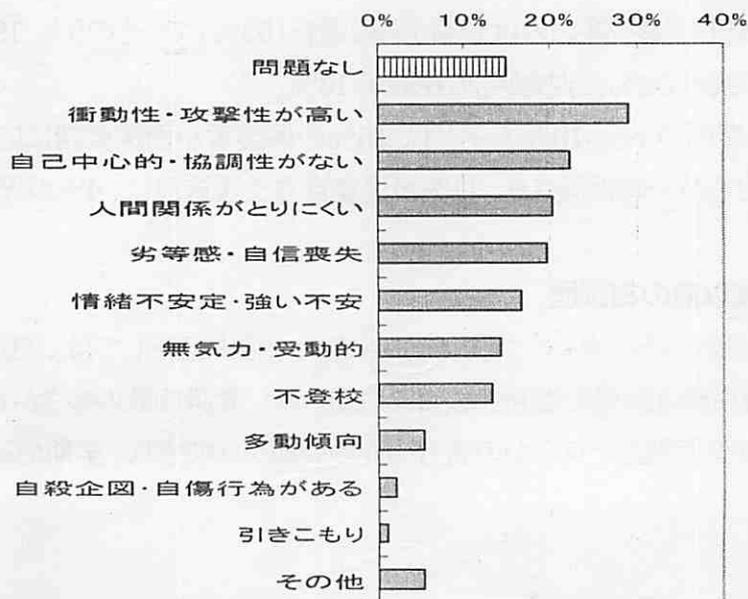


(4) 子どもの状況

① 子どもの心理的・精神的傾向

85%の子どもは、何らかの精神的問題を有しており、「衝動性・攻撃性が高い」「自己中心的・協調性がない」「人間関係がとりにくい」「劣等感・自信喪失」などの問題の出現率が高かった。(グラフ4)。

グラフ4 子どもの心理的・精神的傾向



② 精神疾患の診断

精神疾患と診断されていたのは約2割で、具体的な疾患名としては、ADHD、精神遅滞、行為障害、広汎性発達障害等があげられていた。

(5) 子どもの生育歴

① 養育環境

ア 施設入所の経験

乳児院入所経験のあった子どもは1%、児童養護施設は6%、児童自立支援施設は5%。

イ 養育者の変更

養育者の変更を経験した子どもは47%、変更がなかった子どもは38%、不明15%(グラフ5)。約4分の1は3歳未満に変更。回数としては1回のみの変更が66%で、2回の変更は18%、3回以上の変更は11%であった。

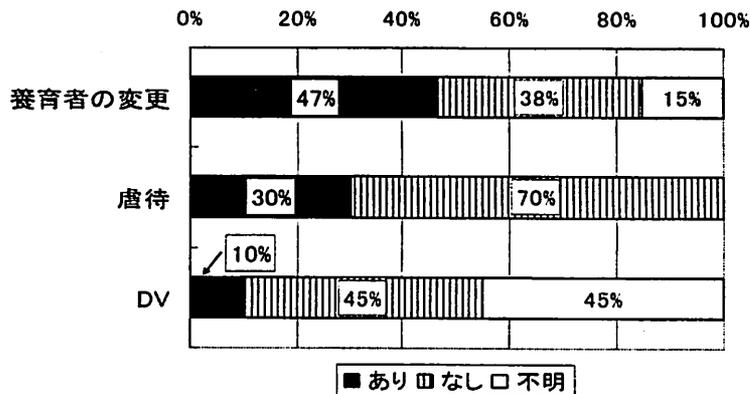
ウ 被虐待体験の有無

被虐待体験があった子どもは全対象児の30%(グラフ5)。いくつかの種類の虐待を重複して受けていることが多く、身体的虐待を受けている子どもは被虐待体験のある子どもの78%、ネグレクトが73%、心理的虐待が50%、性的虐待が32%。

エ DVの有無

DV家庭で育った子どもは全対象児の10%、DVがなかった家庭45%、不明45%。

グラフ5 養育者の変更・虐待・DVの有無



② 養育者の心理的・器質的特徴

心身の健康について「問題ない」養育者は56%、「神経症・情緒的に不安定」9%、「人格障害・性格の偏り」9%、「アルコール(薬物)依存」5%、「知的障害」2%であった。

(6) 調査時点での子どもの状況と援助の効果

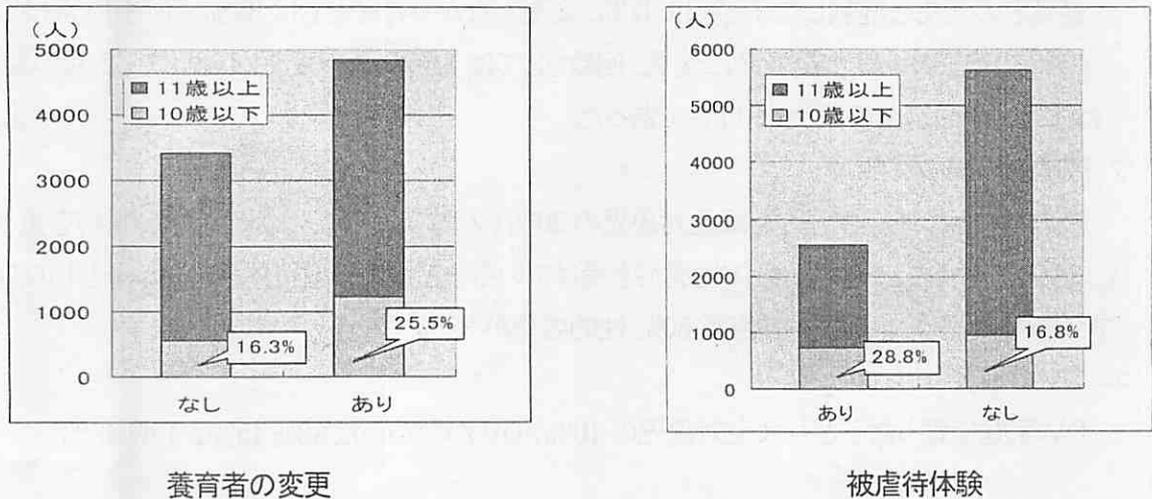
調査時点で終結している事例が62%で、そのうち6割は、良好な状態で終結していた。継続中のケースは34%で、そのうち49%は援助の効果があったと判断されていた。

(7) 養育者の変更・被虐待体験・DV家庭と非行との関係

① 初発非行年齢との関係

グラフ6で示したように、養育者の変更のある子どもの方が、変更のない子どもと比べて、初発非行の年齢が10歳以下である確率が高かった(p<0.001)。被虐待体験のある群とDVのある群もそれぞれ「なし」群と比較して同様の傾向を示した。(DV:28.5% vs. 18.9%)

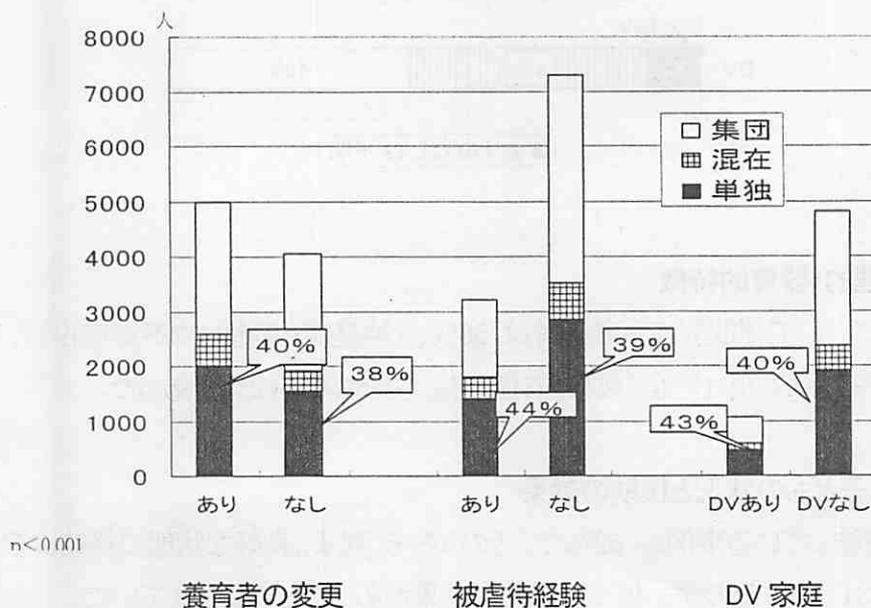
グラフ6 養育上の問題と初発非行年齢



② 単独非行との関係

非行行動の集団化傾向と、養育上の問題との関係を見ると(グラフ7)、いずれも「あり」群が「なし」群と比較して、非行が単独で行なわれる確率が高かった。

グラフ7 養育上の問題と非行の単独化傾向

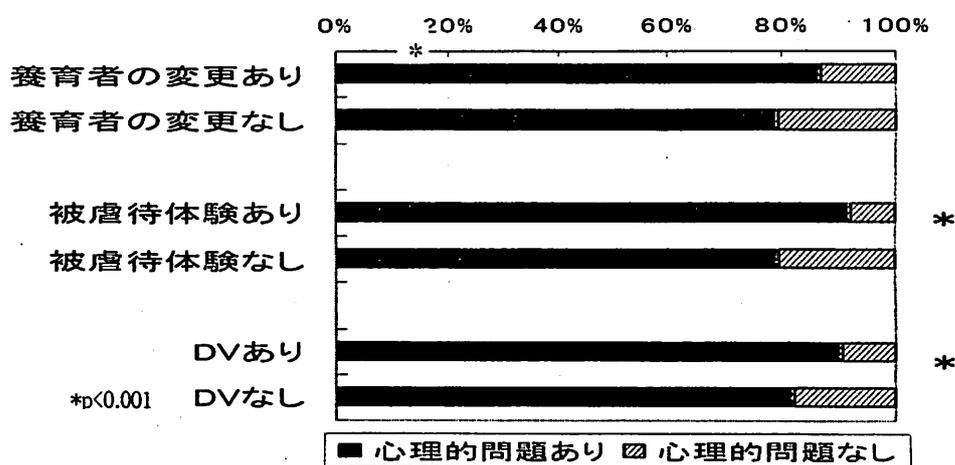


③ 心理的・精神的問題との関係

養育上の問題と心理的・精神的問題との関係を見ると、「あり」群は「なし」群に比べてより高

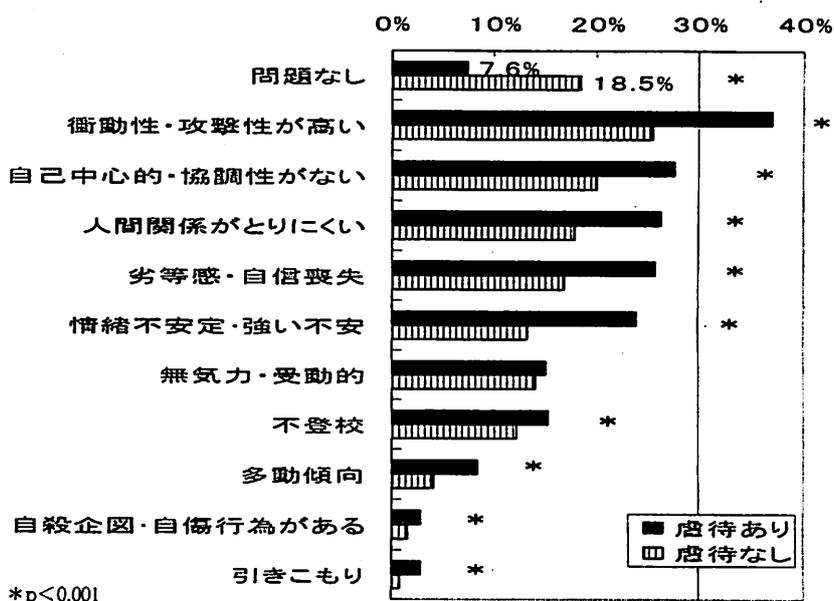
率に心理的問題を抱えていた(グラフ8)。

グラフ8 養育上の問題と心理的・精神的問題



被虐待体験を有している子どもの場合その差は顕著で、92%に心理的問題があった(グラフ8)。また、問題の種類別に比較してみると(グラフ9)、「無気力・受動的」を除いたすべての項目で有意に高い出現率を示していた。

グラフ9 虐待の有無と心理的・精神的問題



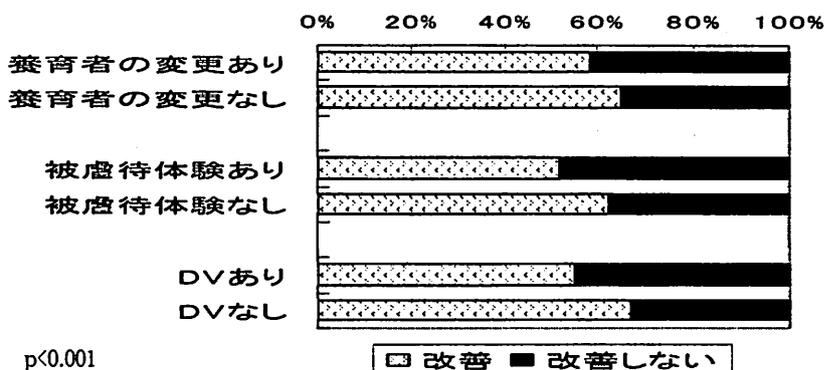
養育者の変更のあった子どもも、DV家庭で育った子どもも「なし」群との比較で同様の傾向を示した。項目別に見ると前者は、「自殺企図、自傷行為」「無気力・受動的」以外は有意に高

い出現率を示し、後者は「無気力・受動的」「引きこもり」以外は有意に高い出現率を示した。

④ 援助効果との関係

調査時点で良好な状態で終結していた群と、継続中の事例で援助効果があったと判断された群を足したものを「改善」群として、上述の養育上の問題の有無との関係を見た。グラフで示したように、「養育者の変更あり」「被虐待体験あり」「DVあり」はいずれも「なし」群と比べて有意に改善率が低かった。

グラフ10 養育上の問題と援助効果



<小括>

1. 調査対象児の特徴

13歳をピークに中学生年代が多い。14歳以上の犯罪少年に対しては司法が関与するため、14歳以上は全体には減少傾向を示している。非行を行う子どもは心理的・精神的問題を有していることが多い(85%)ことが示され、約2割は精神疾患と診断されていることが明らかになり、医療との連携の必要性が示唆された。

2. 養育環境の特徴

ひとり親家庭が約4割と多く、約3割は経済的困窮の問題を抱えている。養育者の変更を経験した子どもが半数近く存在し、その約1/4は変更時期が3歳未満という結果であった。また30%の子どもは虐待を受けており、10%はDV家庭で育っているなど、不適切な養育環境で育った子どもの多いことが示された。

3. 養育上の問題を有する子どもの非行の特徴

養育者の変更、虐待、DVの存在など不適切な養育環境で育った子どもの非行の特徴を調べてみると、初発非行年齢が10歳以下である確率が高く、単独で非行を行なうことが多く、高率に心理的・精神的問題を抱え、援助によって改善しにくいという傾向が明らかになった。

※ 分析については、厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)分担研究「児童思春期精神医療・保健・福祉の介入対象としての行為傷害の診断及び治療・援助に関する研究」報告書における東京都児童相談センター治療指導課長による。

児童相談所における「非行相談に関する調査」について

調査票

0. フェイスシート

1. 児童相談所名

2. 児童相談所の規模 A級 B級 C級

3. 記入者氏名と職名 _____

4. 非行相談対応体制について伺います。(下記の中からお選びください)

- 1. 非行相談対応の専従職員が単独である(チーム化されていない)
- 2. 非行相談対応の専従チームがあたる
- 3. 非行相談対応の職員(またはチーム)がいるが、他の相談と兼務している
- 4. 地区担当があたる
- 5. その他 ()

(3の場合)

どのような相談分野と兼務していますか。 ()

5. 担当の職員の数について伺います。

- 1. 児童福祉司の総数 () 人
- 2. 非行相談対応専従職員の数 () 人
- 3. 非行相談対応専従チームの数 () チーム
- 4. 兼務職員の数 () 人
- 5. 兼務チームの数 () チーム

6. 貴児童相談所における受持ち件数について伺います。

1. 貴児童相談所における平成15年度の新規受理件数(非行相談に限らず総件数をお答えください)

2. 平成16年9月1日現在の児童福祉施設・里親への措置児童数 () 件

3. 平成16年9月1日現在における2.以外の受持ち件数(継続指導ケースを含む) () 人

() 件

7. 非行相談に関してのスーパーバイザー・助言体制の有無について伺います。

あり なし

8. 児童福祉司の経験年数について伺います。(平成16年9月1日現在でお答えください)

- 1. 3年未満 () 人
- 2. 3年以上5年未満 () 人
- 3. 5年以上 () 人

9. 非行相談対応のマニュアルの有無について伺います。

あり なし

1. 非行相談の受理状況

1. 非行相談の受理件数について伺います。平成13年度、14年度、15年度の3年間について御記入ください。

平成13年度

虞犯 ___ 件 触法 ___ 件

平成14年度

虞犯 ___ 件 触法 ___ 件

平成15年度

虞犯 ___ 件 触法 ___ 件

2) 児童相談所の相談体制の問題

1. 非行相談に取り組む時間的余裕がないこと
2. 非行相談に取り組む経験やスキルが未熟なこと
3. 人員配置が手薄であること
4. 非行相談に詳しい指導者が所内にいないこと
5. 重大な非行への対応が体制的に困難なこと
6. 一時保護所の体制が不十分なこと
7. 特になし
8. その他 ()

(「8. その他」の場合)

その内容についてお答えください。 ()

3) 他機関との関係(児童自立支援施設を除く)

1. 児童相談所が非行の専門機関であるという認識を関係機関がもっていないこと
2. 非行の事実があっても、警察が通告してくれない場合があること
3. 身柄を保護しようとしても、警察の協力が得られない場合があること
4. 情報の正確さに疑問がある場合があること
5. 情報が他機関と共有できないこと
6. 学校が過剰に通告してくること
7. 学校が児童の情報を隠すことがあること
8. 学校が調査等に非協力的なことがあること
9. 学校に当該児童を排除するような意図が窺えること
10. 家庭裁判所送致の明確な基準がないこと
11. 家庭裁判所から書類作成についていろいろ注文がつくこと
12. 特になし
13. その他

(「13. その他」の場合)

その内容についてお答えください。 ()

2. 非行相談での施設入所後、他の相談と比較して困難を感じることは何ですか(複数回答可)。

1. 保護者へのケースワーク
2. 施設退所後のための環境調整
3. 施設入所中におこした事件(無断外出等)への対応
4. 他施設への措置変更手続きのしづらさ
5. 退所時期の決定と調整
6. 進学や就職等、進路への対応
7. 特になし
8. その他

(「8. その他」の場合)

その内容についてお答えください。 ()

3. 児童相談所が非行相談に対応するメリットはどのようなことがあると思いますか(複数回答可)。

1. 非行相談以外の他の相談から、非行を発見しやすい
2. 低年齢からの対応が可能
3. 心理的な内面の事情を表出させるノウハウがある
4. 保護者に対してのケースワーク対応ができる
5. 親だけが来所して援助を受けることが可能である
6. 地域や学校との連携が密接である
7. 学校へのアドバイスが可能
8. 児童の発達が遅れているケースに総合的に援助できる
9. 発達障害に対し、医療・保健機関などとの連携を組みやすい
10. 特になし
11. その他

(「11. その他」の場合)

その内容についてお答えください。 ()

4. 児童自立支援施設との関係

1. 児童自立支援施設と定期的に連絡協議・意見交換をしていますか。

(している場合)

している

していない

もっとも密接な関係のある施設との協議回数は年に何回ですか。

()回

2. 児童自立支援施設への入所の判断においてもっとも重視する要素を1, 次に重視するものを2, その次を3(以下, 4, 5・・・)と番号をつけてください。考慮しない要素は0としてください。

1. 非行の程度
2. 保護者の監護状態
3. 入所同意がとれるかどうか
4. 集団での処遇が適しているかどうか
5. 地域の学校に通わせないほうがよいかどうか
6. 児童に児童自立支援施設の処遇内容があっているかどうか
7. その他

(「7.その他」の場合)

その内容についてお答えください。

()

3. 児童自立支援施設との関係で困難に感じることはどんなことですか(複数回答可)。

1. 児童の入所がスムーズにいかない場合がある
2. 施設が特別な状況・条件の児童しか受け入れてくれない
3. 処遇内容が、児童の非行内容に対応していない
4. 個別処遇がしにくい
5. 医療機関との連携がしにくい
6. 学校教育の成果がみえにくい
7. 特になし
8. その他

(「8.その他」の場合)

その内容についてお答えください。

()

5. リービングケア・アフターケア

1 家庭復帰困難児に対してどのような対応をしていますか(複数回答可)。

1. 児童養護施設への措置変更を検討する
2. 自立援助ホームの活用を検討する
3. 住み込みの就職先等をさがして対応
4. 地域のアフターケア組織等の力を借りて対応
5. リービングケアは担当していない
6. その他

(「6.その他」の場合)

その内容についてお答えください。

()

2 非行相談ケースについてのアフターケア(施設退所後)は、どのように取り組んでいますか(複数回答可)。

1. 通所指導を行っている
2. 自宅への訪問を行っている
3. 職場訪問を行っている
4. 電話で生活の様子等を尋ねている
5. 特にしていない
6. その他

(「6.その他」の場合)

その内容についてお答えください。

()

御協力ありがとうございました。

児相番号() ※送り状記載の児相番号を記入してください。
整理番号() ※児相ごとに1からの整理番号を記入してください。

I. 児童と家族の属性・状況

[No. 1] 受理時の児童の年齢(15年度最初の受理時の年齢)
()歳

[No. 2] 受理時の児童の学年
未就学 小 中 高 ()年 卒

[No. 3] 児童の性別
男 女

[No. 4] 平成15年度中の受理回数
()回

[No. 5] 非行の内容(複数回答可)

盗み(万引・占有離脱物横領含む)	放火(火遊び含む)
傷害・粗暴	性的非行
不良交友	金品持ち出し
家出外泊	その他()
薬物	

[No. 6] 非行の集団化傾向
単独 複数 混在

[No. 7] 非行を起こした場所(複数回答可)
地域 学校 家庭内 その他()

[No. 8] 相談経路(複数回答可)
家族・親族から 学校から 児童自身から 家庭裁判所から 警察から(身柄あり)
警察から(身柄なし) その他()

[No. 9] 平成15年度中の面接回数
[No. 9-1] 児童面接(身柄通告時を除く)
()回 ※不明はFと記入

[No. 9-2] 児童が面接要請に応じなかったことの有無
あり なし

[No. 9-3] 保護者面接(引取り時を除く)
()回 ※不明はFと記入

[No. 9-4] 保護者が面接要請に応じなかったことの有無
あり なし

[No. 10] 平成15年度中に行った家庭訪問の回数
()回 ※不明はFと記入

[No. 11] 平成15年度中の一時保護の有無

あり なし

(ありの場合)

[No. 11-1-SQ1] 回数

()回 ※不明はFと記入

[No. 11-1-SQ2] 一時保護の場所(複数回答可)

児童相談所 警察 児童自立支援施設 その他()

(なしの場合, 又は「あり」だが一時保護しなかったことがある場合)

[No. 11-2-SQ1] 一時保護しなかった理由(複数回答可)

必要なかった 児童が拒否した 保護者が拒否した

一時保護所にあきがない 一時保護所の態勢が整っていない その他()

[No. 12] 児童について平成15年度中に行った関係機関との協議回数(電話協議・会議含む)

()回 ※不明はFと記入

[No. 13] 平成14年度以前の貴児童相談所での相談歴(非行相談以外も含む)

[No. 13-1] 平成14年度以前の受理回数

()回 ※不明はFと記入

[No. 13-2] 初回受理時の年齢

()歳 ※不明はFと記入

[No. 13-3] 平成14年度以前の相談内容(複数回答可)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| A. 養護相談(養育困難) | N. 反抗 |
| B. 養護相談(被虐待児など養護に欠ける) | O. 落ち着きがない |
| C. 夜尿 | P. 内気 |
| D. 虚弱児 | Q. 緘黙(かんもく) |
| E. その他疾患など | R. 不活発 |
| F. 肢体不自由児相談 | S. 家庭内暴力 |
| G. 視聴覚障害相談 | T. 虚言 |
| H. 言語発達障害相談 | U. 不登校(学校, 幼稚園) |
| I. 重症心身障害相談 | V. 不登校(保育所) |
| J. 知的障害相談 | W. 適性相談 |
| K. 自閉症相談 | X. しつけ相談 |
| L. ぐ犯行為等相談 | Y. その他相談 |
| M. 触法行為等相談 | |

(L, Mにあてはまる場合)

→ [No. 13-3-SQ1] 相談内容(複数回答可)

盗み(万引含む) 傷害・粗暴 不良交友 家出外泊 薬物
放火(火遊び含む) 性的非行 金品持ち出し その他()

[No. 14] 平成15年度初回面接時の同居家族構成(複数回答可)

実父 実母 養継父 養継母 祖父 祖母 きょうだい 不明
その他()

[No. 15] 家庭の経済状態

[No. 15-1] 家庭の経済状態(評価)

富裕 普通(困窮なし) 困窮あり 経済状態不明

[No. 15-2] 家庭の経済状態(生活保護受給)

受給あり 受給なし 受給の有無不明

[No. 16] 児童の知的能力分類

※境界域はIQ70～80程度としますが、知能テストを実施していない場合でも総合的に御判断の上、御記入ください

普通 境界域 発達遅滞 不明

[No. 17] 児童の心理的・精神的傾向(複数回答可)

- | | |
|---------------|-----------------|
| A. 問題なし | G. 劣等感・自信喪失 |
| B. 人間関係がとりにくい | H. 自己中心的・協調性がない |
| C. 衝動性・攻撃性が高い | I. 自殺企図・自傷行為がある |
| D. 多動傾向 | J. 不登校 |
| E. 情緒不安定・強い不安 | K. ひきこもり |
| F. 無気力・受動的 | L. その他() |

[No. 18] 児童についての医師による精神疾患診断(複数回答可)

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| A. 診断なし | J. 広汎性発達障害(アスペルガー症候群, 自閉症など) |
| B. 統合失調症 | K. 精神遅滞 |
| C. うつ病・躁うつ病 | L. 薬物依存(アルコール, 覚せい剤, シンナー, 睡眠薬などへの依存) |
| D. PTSD | M. てんかん |
| E. 解離性障害 | N. 人格障害 |
| F. 愛着障害 | O. 行為障害 |
| G. 神経症(対人恐怖, パニック障害, 強迫症状, 摂食障害など) | P. 反抗挑戦性障害 |
| H. ADHD(注意欠陥多動性障害) | Q. 不明 |
| I. LD(学習障害) | R. その他() |

II. 生育歴

[No. 19] 入所型施設等の入所経験(福祉施設以外も含む) ※なければ空欄

乳児院 児童養護施設 児童自立支援施設 情緒障害児短期治療施設
知的障害児施設 里親 母子生活支援施設 少年院 その他()

[No. 20] 養育者の変更の有無(養育者のうち一人以上が変更したり喪失した場合を指す。例：親との離別、親の死亡、施設入所など。複数回答可)

なし 3歳未満にあり 3歳以上就学未満にあり 小学生期にあり 中学生期にあり
 中卒以降にあり 時期不明だがあり 有無不明

[No. 20-SQ1] 変更の回数

()回 ※不明はFと記入

[No. 21] 初発非行年齢と内容

[No. 21-1] 年齢

()歳 ※不明はFと記入

[No. 21-2] 非行内容(複数回答可)

盗み(万引含む) 傷害・粗暴 不良交友 家出外泊 薬物
 放火(火遊び含む) 性的非行 金品持ち出し その他()

[No. 22] 保護者の養育態度

[No. 22-1] 保護者の基本的養育態度(SQ1, SQ2から1つずつ選択)

[22-1-SQ1] 支配的 やや支配的 どちらでもない(中間) やや服従的 服従的 不明

[22-1-SQ2] 拒否的 やや拒否的 どちらでもない(中間) やや保護的 保護的 不明

[No. 22-2] 保護者の特徴的養育態度(複数回答可)

適切 過干渉・過保護 甘やかし 無関心・放任 厳格
 不明 その他の不適切な養育態度

[No. 23] 児童の親に対する態度

[No. 23-1] 児童の母親に対する態度(複数回答可)

母親がいない 特に問題ない 過度に依存的な態度 過度に服従的な態度
 役割が逆転し、親を世話するような態度 反発、無視など反抗的態度
 依存と反抗の両極端を繰り返す 無関心、冷淡など距離のある態度

[No. 23-2] 児童の父親に対する態度(複数回答可)

父親がいない 特に問題ない 過度に依存的な態度 過度に服従的な態度
 役割が逆転し、親を世話するような態度 反発、無視など反抗的態度
 依存と反抗の両極端を繰り返す 無関心、冷淡など距離のある態度

[No. 24] 被虐待の経験 ※「虐待なし」、「虐待の有無不明」は空欄としてください。

※児童が受けている虐待の種類と、その虐待の加害者が交差するところにある口(四角)にチェックしてください。

※虐待者は「家庭関係において直接的に虐待行為をした者」としてください。保護者的立場にある者に限りません。

※ネグレクトには「他の者による虐待の放置」を含まないこととしてください。

種類\虐待者	実父	実母	養継父	養継母	祖父	祖母	きょうだい	その他	虐待者不明
身体的虐待									
性的虐待									
ネグレクト									
心理的虐待									

[No. 25] 不登校経験の有無(小学校以後における、だいたい30日以上のもの)

あり なし

[No. 26] 転校経験の回数(小学校以後に限る)

()回 ※不明はFと記入

[No. 27] 暴力経験の有無

[No. 27-1] 家庭内加害経験

あり(性的なものを含まない) あり(性的なものを含む) なし 不明

[No. 27-2] 家庭外加害経験

あり(性的なものを含まない) あり(性的なものを含む) なし 不明

[No. 27-3] 家庭内での暴力被害経験(児童虐待防止法にいう「児童虐待」を含む)

あり(性的なものを含まない) あり(性的なものを含む) なし 不明

[No. 27-4] 家庭外被害経験

あり(性的なものを含まない) あり(性的なものを含む) なし 不明

[No. 28] 家庭内における養育者・同居者にかかわるDVの有無(複数回答可)

なし 3歳未満にあり 3歳以上就学未満にあり 小学生期にあり 中学生期にあり
中卒以降にあり 時期不明だがあり 有無不明

[No. 29] 養育者の心理的・器質的特徴(複数回答可)

アルコール等(酒・薬物)依存 神経症・情緒的に不安定 人格障害・性格の偏り
知的障害 その他の精神疾患 なし その他()

[No. 30] 家庭・養育環境における問題(複数回答可)

※該当する場所にチェック

	なし	3歳未満	3歳以上就学 未満	小学生	中学生	中卒以降	不明
両親別居							
両親離婚							
同居の親の 再婚							
同居の親や 祖父母等と の死別							

Ⅲ. 地域との連携

[No. 31] 児童のケースに関しての学校との連携の状況

良い 悪い 不明 その他()

[No. 32] 児童のケースに役立った協力機関等(複数回答可, なければ空欄)

児童委員 学校 福祉事務所 保健所 児童館 警察・少年センター 家庭裁判所
保護観察所・保護司 その他()

IV. 現在の状況

[No. 33] 平成15年度中から平成16年9月1日までの施設等への入所の有無と施設種別

なし 児童自立支援施設 児童養護施設 里親委託 情緒障害児短期治療施設
知的障害児施設 自立援助ホーム その他()

[No. 34] 平成16年9月1日現在の児童に関する状況

終結 援助継続中

(終結している場合)

[No. 34-1-SQ1] 終結の状況

良好終結 家裁送致終結 その他終結(転居, 行方不明等)

(継続中の場合)

[No. 34-2-SQ1] 現在の状況

児童自立支援施設入所 児童養護施設入所 里親委託

情緒障害児短期治療施設入所 知的障害児施設入所 自立援助ホーム入所

福祉司指導 継続指導 その他()

[No. 34-2-SQ2] 継続中の援助(指導)の効果

効果あり 変化なし 悪化

V. 非行対応への課題

ここからの質問には、回答者の主観により、御回答ください。
あてはまる選択肢がない場合は、最も近いと思われる選択肢をお選び
下さい。

[No. 35] 本ケースの要因は次のうちどれにあてはまると思いますか。主たる要因と思われるものと、
従たる要因と思われるものを、それぞれ1つずつお選びください。

1. 生理的・医学的なもの(疾病・障害) 2. 心理的なもの 3. 家族 4. 学校 5. 交友 6. 地域

[No. 36] 本ケースで困難だったことは何ですか。(複数回答可, なければ空欄)

児童との接触 児童の処遇 保護者との関係 学校との関係 警察との関係
施設との関係 地域との関係 その他()

[No. 37] 本ケースを処遇する上で、必要性を感じたことは何ですか。(複数回答可, なければ空欄)

児童相談所の援助体制の充実・強化
保護者に対する児童相談所の権限強化
児童委員など地域の協力体制の充実・強化
学校との協力・支援体制の充実・強化
警察との協力・支援体制の充実・強化
児童福祉施設等(里親含む)の体制の充実・強化
その他()

御協力ありがとうございました。

一時保護所の実態調査について

調査票

記入しないで下さい！

一時保護所実態調査

1 【定員超過】平成17年4月1日現在の定員と実員をご記入下さい。(4月1日に入退所の件数を含む)

	幼児	男児	女児	区別なし
定員				
実員				

2 【入所件数】平成16年度の保護児童数についてお尋ねします。

平成16年度の新規保護人数(再入所を含む)を、ご記入ください。

そのうち外国籍または未就籍の児童数を()にご記入下さい。

	養護ケース		非行・ぐ犯 ケース	その他	合計
		うち虐待			
小学校入学前	()	()	()	()	()
学齢男	()	()	()	()	()
学齢女	()	()	()	()	()
その他	()	()	()	()	()
合計	()	()	()	()	()

3 【退所先】平成16年度における退所児童の退所先について、以下の表にご記入下さい。

乳児院	児童養護施設	児童自立支援施設	情緒障害児短期治療施設	里親	自宅	親族宅	その他

4 a 【設備】居室についてお尋ねします。幼児、幼児以外の男子、女子についてそれぞれご記入下さい。

	男児		女児		幼児()歳以下	
	部屋数	広さ㎡(平均)	部屋数	広さ㎡(平均)	部屋数	広さ㎡(平均)
個室						
2人部屋						
3人部屋						
4人部屋						
5人部屋						
()人部屋						
()人部屋						
()人部屋						

b 学齢児以上の男女の居室の区別について、該当するものを選択して下さい。

1.男女の居室は完全に区別している	2.男女の居室は、幼児を除き完全に区別している
3.特に理由が無い限り、区別していない	4.その他(具体的に:)

c 学齢児以上の男女の居住空間の区別について、該当するものを1つ選択して下さい。

1.男女の居住空間は完全に区別している	2.男女の居住空間は、幼児を除き完全に区別している
3.特に理由が無い限り、区別していない	4.その他(具体的に: _____)

d 以下の選択肢の中から、学齢児以上の男女で区別している居住空間を全て選択して下さい。

ア. 学習室	イ. 談話室	ウ. 図書室	エ. 浴室	オ. トイレ	カ. 食堂	キ. 体育館
ク. プレイルーム	ケ. 面接室	コ. 保健室				

e 学齢児以上の男女間の会話について、どのような規則を設けていますか。該当するものを選択して下さい。

1.男女間での会話の禁止	2.男女間での必要ない会話の禁止	3.男女間での行き過ぎた会話を禁止
4.特にルールなし	5.その他(具体的に: _____)	

f 平成16年度中に、どのような工夫をしても、居室が足りなくなるような状況がありましたか

(1.あった ・ 2.なかった)

g fで「1.あった」にご記入いただいた場合、そのような状況は、平成16年度でどの程度発生しましたか。

(1.年間を通して 2.半年以上 3.3ヶ月以上 4.1ヶ月以上 5.1日以上 6.不明)

h 緊急の場合に、子どもの居室、及びその他の部屋等に施錠できますか。

居室: (1.全ての部屋に施錠できる 2.一部施錠できる部屋がある 3.施錠できる部屋はない)

その他の部屋: (1.全ての部屋に施錠できる 2.一部施錠できる部屋がある 3.施錠できる部屋はない)

門: (1.内側から施錠できる 2.外側から施錠できる 3.1と2 2.施錠できない)

玄関: (1.内側から施錠できる 2.外側から施錠できる 3.1と2 2.施錠できない)

窓: (1.内側から施錠できる 2.外側から施錠できる 3.1と2 2.施錠できない)

5 【入所期間】平成16年度に退所した児童の入所期間についてお尋ねします。

平成16年度中に退所した児童で、2ヶ月、及び6ヶ月、1年以上入所した児童数をご記入ください。

2ヶ月間以上4ヶ月未満	<input type="text"/> 人	/	4ヶ月間以上6ヶ月未満	<input type="text"/> 人
6ヶ月間以上1年未満	<input type="text"/> 人	/	1年間以上	<input type="text"/> 人

6 【職員配置】貴一時保護所における職員配置についてお尋ねします。

a 貴一時保護所に勤務する職員数は、何名ですか。 人

b 次の職種について、職員数をご記入下さい。

	児童指導員	保育士	医師	看護師	保健師	心理職	教員	調理員	その他
常勤									
その他									

c 直接処遇職員の特に夜間の勤務形態で、当てはまるものを選択して下さい。

(1.三交代勤務 2.宿直 3.夜間専門職員の配置)

d 平日、休日、夜間の直接処遇職員の数を、以下の表にご記入下さい。

	直接処遇職員					
	常勤職員			非常勤職員		
		内、心理職			内、心理職	
			内、他部署と兼務			内、他部署と兼務
平日(日中)						
休日(日中)						
夜間						

e 昼間における直接処遇職員の勤務について、該当するものを選択して下さい。

男性職員(1.1名以上勤務 2.できるだけ1名以上勤務 3.特に配慮なし)

女性職員(1.1名以上勤務 2.できるだけ1名以上勤務 3.特に配慮なし)

f 夜間における直接処遇職員の配置について、該当するものを選択して下さい。

男性職員(1.1名以上勤務 2.できるだけ1名以上勤務 3.特に配慮なし)

女性職員(1.1名以上勤務 2.できるだけ1名以上勤務 3.特に配慮なし)

7 【健康診断等】平成16年度に行った健康診断等についてお尋ねします。

a 健康診断は、どの時点で行われますか。以下の選択肢から1つ○を付けて下さい。

1.必ず入所前に実施 2.出来るだけ入所前に実施 3.入所後に実施 4.ケースに応じて実施
5.実施していない

b 平成16年度に保護した児童で、感染症が発症した児童は何人いましたか。

所内で隔離したのは延べ 人 隔離しなかったのは述べ 人

c 感染症が発症、あるいは発症しており、入所の制限を行ったのは、平成16年度に何回ありましたか

回

d 医療ケアが必要な児童に対する対応について、当てはまるものを選択してください。

1.貴児童相談所に診断する体制がある 2.かかりつけの医療機関に診断してもらう
3.その他 ()

e 児童精神科等、児童の専門科がある医療機関との連携体制がありますか。

1.はい 2.いいえ 3.その他()

- 8 【学習】平成16年度の保護児童の学習についてお尋ねします。
- a 学習指導はどなたが行っていますか (1.学習指導専任職員 ・ 2.直接処遇職員 ・ 3.1と2)
- b aで、「1.専任職員」、及び「3.1と2」を選択した場合、学習指導を担当する職員の雇用形態を選択してください。
(1.常勤職員 ・ 2.非常勤または再雇用職員 ・ 3.1と2)
- b 教育委員会等から教員が派遣されていますか (1.はい ・ 2.いいえ)
- c 学校への通学を許可することはありますか (1.はい ・ 2.いいえ)
- d 日課以外で、子どもが学習することは可能ですか (2.はい ・ 3.いいえ ・ 3.場合によって)

- 9 【ボランティア】貴一時保護所の平成16年度のボランティア受け入れ実績について、下の表にご記入下さい。

学習指導	名	一時保護所業務の補助	名	所外指導	名
その他	名	具体的に			

- # 【権利ノート】子どもの権利ノート(保護所版)を作成、配布していますか。

1.配布している	2.配布するが回収する(説明にのみ使用)	3.作成しているが配布していない
4.作成していない	5.その他(具体的に:)	

- # 【第三者評価】第三者機関に関してお尋ねします。

- a 貴一時保護所には子どもからの苦情対応を行う第三者機関がありますか
(1.ある ・ 2.計画中 ・ 3.なし)
- b aで「1.はい」とご記入いただいた一時保護所にお尋ねします。
それはどのような機関ですか。該当する項目を全て選択して下さい。

1.自治体が設置する子どもの人権審査委員会等	2.人権オンブズパーソン
3.社協等外部に委託(具体的に:))
4.その他(具体的に:))

- # 【入浴】入浴についてお尋ねします。

- a 1週間のうちの入浴日は週何日ですか 週 日

- # 【所外指導】所外指導はどのようなタイミングで行われていますか。

1.毎日	2.1週間に1回以上	3.1ヶ月に1回以上	4.季節(行事)ごと	5.その他()
------	------------	------------	------------	----------

- # 【日課表】日課表についてお尋ねします。

- a 定まった日課表がありますか (1.はい ・ 2.いいえ)
- b 就寝時間は何時に設定されていますか 幼児() 小学生() 中学生以上()
- c 学習の時間は何時間設定されていますか 小学生() 中学生以上()
- d 夕食の時間は、何時から何時までですか 開始(:) 終了(:)

【食事】食事についてお尋ねします。

- a メニュー作成に、子どもの希望を取り入れますか (1.はい ・ 2.いいえ)
- b アレルギー除去食等に対応していますか (1.はい ・ 2.いいえ)
- c 食事以外に、おやつを提供していますか (1.はい ・ 2.いいえ)
- d 食事以外に、夜食を提供していますか (1.はい ・ 2.いいえ)
- e 禁忌食等の対応をしていますか (1.はい ・ 2.いいえ)

【夜間緊急保護】夜間の緊急保護についてお尋ねします。

夜間の勤務体制時に、警察署からの通告があった場合、どのように対応されていますか。

- | | | |
|---------------------|--------------------|------------|
| 1.宿直が警察署に迎えに行く | 2.宿直以外の者が警察署に迎えに行く | 3.警察が連れてくる |
| 4.その他(具体的に: _____) | | |

【安全管理体制】安全管理体制についてお尋ねします。

a 警備体制(警備員の勤務)について、それぞれ該当するものに○を付けて下さい。

	昼間	夜間
平日	1.警備職員 2.警備機器 3.1と2 4.なし	1.警備職員 2.警備機器 3.1と2 4.なし
土曜日	1.警備職員 2.警備機器 3.1と2 4.なし	1.警備職員 2.警備機器 3.1と2 4.なし
日曜・祝日	1.警備職員 2.警備機器 3.1と2 4.なし	1.警備職員 2.警備機器 3.1と2 4.なし

b 貴一時保護所には、非常時の消火設備が整えられていますか。(1.はい ・ 2.いいえ)

c bで「1.はい」を選択された場合、どのような設備が確保されていますか。該当するものを全て選択してください。

- | | | | | |
|--------|------------|----------|---------|-----------------|
| a. 消火器 | b. スプリンクラー | c. 非常用放送 | d. 避難経路 | e. その他(_____) |
|--------|------------|----------|---------|-----------------|

【無断外出】無断外出についてお尋ねします。

a 無断外出は平成16年度中に何件発生しましたか。 件

b 無断外出対応のマニュアル等が作られていますか (1.はい ・ 2.いいえ)

【規則を破った場合】規則を破った場合、どのようなペナルティを与えますか。該当するものを全て選択して下さい。

- | | | |
|--------------------------------|--------------------|--------------|
| 1.口頭で注意する | 2.他の入所者から分離し、自省をする | 3.食事の場所を別にする |
| 4.掃除等の役割をこなさせる 5.その他 (_____) | | |

a 【入所時間】貴一時保護所では、入所する時間帯の配慮を求めていますか。

(1.求めている 2.求めていない)

b aで、「1.はい」を選択された場合、その時間帯は何時から何時までですか。

	時から		時	/		時から		時
	時から		時	/		時から		時

- # 【運営上の問題】一時保護所が児童相談所の近隣にない、あるいは離れている場合のみご回答ください。
 どのような、運営上の問題がありますか。

【具体的に】

- # 【子どもへの対応困難】平成16年度中に入所していた児童についてお尋ねします。
 一時保護所で以下のような特徴を示す児童がいましたか。

- a 暴力や脅し、威圧的な態度が顕著 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- b パニックをおこす (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- c 夜驚、夜尿がある (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- d 性的に不適切な発言や行動が顕著 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- e 自傷傾向／希死念慮が強い (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- f 虚言や作話 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- g 多動傾向 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- h 精神障害か、あるいはその疑い (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- i 知的障害か、あるいはその疑い (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- j (知的障害児以外で)学力が著しく低い (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- k 年齢に応じた、生活習慣が身に付いていない (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- l その他に援助に困難を感じた子どもの特徴があればご記入下さい。

※ 上記、a~lの中で、一時保護中に対応に困難を感じている順に、5つ選択してください。

--	--	--	--	--

- 23 【親への対応困難】平成16年度中に入所していた児童の親、あるいは関係者についてお尋ねします。
 以下のような、一時保護所への事例、事件がありましたか。

- a 強引な引き取り要求 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- b 強引な面会・通信 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- c 夜間の来所・電話 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- d 頻繁な来所・電話 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- e 威圧的・脅迫的行為 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- f 暴力・傷害行為 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- g 理不尽な不満・批判 (1.ある ・ 2.ない ・ 3.不明)
- h その他、保護者対応に困難を感じた点があればご記入下さい。

※ 上記、a~hの中で、一時保護中に対応に困難を感じている順に、5つ選択してください。

--	--	--	--	--